

**陽関**は、古代シルクロードの重要関門で風化した狼煙台あとが見える。敦煌の南西70kmにある。「西の方陽関を出ずれば故人無からん」と送別の漢詩で知られるところでもある。門関も陽関と同様に西域南道で異民族と対峙する最前線である。敦煌の北西100kmにある。夕方夜風も涼しく、ホテル近くの夜市に出かける。緑色の石から薄く削りだした猪口を一個買った。



敦煌・陽関

**【五日目】** 敦煌の本鳴、世界遺産でもある莫高窟だ。鳴沙山の東側に造られた石窟群である。4世紀から1000年間にわたり掘り続けられた492の石窟に彩色塑像と壁画が保存されている。なかでも96窟は莫高窟の代表的な存在で中には34.5mの弥勒菩薩像が鎮座している。インドのアジャンタやアローラ遺跡に匹敵する壮大な遺産である。

ホテルに戻りシャワー休憩した後、最寄り駅までバスで砂漠を移動する。横断夜行列車に乗るためだ。駅で冬虫夏草のお酒を買い夜行鉄道に乗る。個室寝台の軟臥車、旅の友と酒飲み語らいながら、西へ真っすぐ続く線路にいつしか眠っていた。

**【六日目】** 早朝トルファンに着く。タクラマカン砂漠の北側にあたり、もう新疆ウイグル自治区の東の街だ。今日は砂漠の中の遺跡巡りとなる。

トルファンは天山山脈の雪解け水によって潤うオアシス都市である。ここは唐に征服される前、高昌国と呼ばれていた。1.5km四方の高昌故城を見る。遺跡から西域交流都市をうかがうことができる。

トルファン盆地の北の端に連なる山脈が、火焰山である。陽炎で焰のようにゆらめきこの名がついている。貴族の墓地が数百に及んで残っているのが、アスターナ古墳群である。遺体はミイラとなって保存されている。



葡萄棚下で昼食

東方50kmのムルトク川の西の岸に400mにわたり83の窟がある。

**ベゼクリク千仏洞**である。天山山脈から流れるのがカレーズと呼ばれ、いたるところで井戸がほられている。

**葡萄**が良く取れる農家の庭先で食事をし、食べさせてもらった。これがオアシスと言うものなのだろう。



千仏洞

最終のウルムチへはバスで砂漠の中を走る。途中トイレなんかはない。ご婦人方も砂丘のかけで日傘を差して用をすますことになる。無事新疆ウイグル自治区の首府ウルムチに到着。夕食は、イスラム料理シシカバブだ。

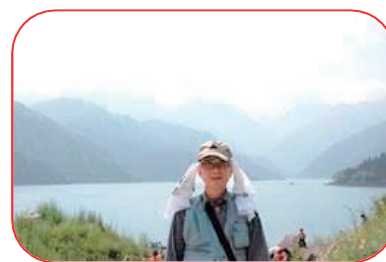
**【七日目】** 旅の最終日である。

午前中、中国のスイスと呼ばれる1,980mの**天池**にバスで上る。

**天池**は、万年雪の天山山脈の主峰博格达峰に抱かれた高原の湖である。

午後は、旅のしめくりに新疆ウイグル自治区博物館を見学した。古代シルクロードの少数民族の歴史と文化財などの出土品約3万点が展示されている。

砂漠から見つかった楼蘭の美女(ミイラ)も間近で見学できた。日本語の上手な案内係はウルムチで勉強し、日本には行ったことがないと言った。帰路は、19時20分発上海行きに乗った。上海に一泊。



天池

**【八日目】** 9時30分中国東方航空で上海に別れを告げ、12時40分無事関空に帰りました。

**井戸川様** : 今回原稿を投稿いただきありがとうございました。

**会員の皆さま**

会員の皆さん趣味・旅行・写真等々があればOB会事務局まで、電話・FAX等で連絡を下さい。

OB会 : 事務局